

聴覚障害者（ろう者）における図書館サービスについて
～八王子市中央図書館 手話によるおはなし会および手話による図書館利用案内を中心に～

自己紹介：平成18年4月より現職

(1) 八王子市図書館について

①手話によるおはなし会（平成20年8月より開催 現在14回目まで開催（年3～4回））

目的：本に親しむきっかけづくりとなるように手話で分かりやすくおはなしする。

対象：聴覚障害のあるお子さんと大人

演者：図書館員および聴覚障害のある市民の方

工夫：日本語を手話でどう表すのか・絵にない表現をどのように表すか

②手話による八王子市図書館利用案内（24年度撮影、25年度貸出開始）

目的：聴覚障害者の利用促進および、聴覚障害者以外でも初めて利用する方などに必要な情報を提供する。

貸出：市内全館で貸出（視聴時間35分）

視聴：市ホームページ・図書館ホームページで視聴可（youtubeでも視聴可）

特徴：台本・脚本等は図書館員による。出演は図書館員と聴覚障害のある市民の方で市民との協働で作成している。手話が分からない方向けに字幕と音声を付与している。

③窓口での対応 手話バッチ着用者を中心に対応、筆談器の設置

(2) 聴覚障害者（ろう者）のサービスについて

①ろう者とは

- ・身体的、文化的定義
- ・コミュニケーション
- ・教育について →読解力、文章力について

②ろう者に対する図書館サービスについて（考えられるもの） ※上から容易と思われる順

（八王子市中央図書館で実施しているものは◎、一部実施しているものは△）

◎筆談器の設置（「筆談で対応します」表示も、筆談の際は簡条書きなど簡潔に）

◎案内・ホームページ等にFAX番号の表示

△絵等を用いた掲示・案内 例) 耳マーク、絵文字（ピクトグラフ）等

△手話・字幕付き映画上映会、講演会などの開催

△手話による窓口対応

△見学会、利用説明会、出前講座

・お知らせ用電光掲示板、磁気ループなどハード面の整備

◎非常時用お知らせライトなど

△手話で本を朗読、読み聞かせ、ブックトーク

（地元の聴覚障害者関係団体、手話サークル、近隣のろう学校と連携する）

△レファレンス（本をどう読んだら調べられるか分からない時など）

△字幕・手話付き資料やマンガ、LLブックの様な読みやすい資料の提供

◎字幕・字幕付き資料の制作（自館または委託）

◎手話による利用案内

・手話放送、字幕付き放送コーナー（CS放送「目で聴くテレビ」等）

他の事例：枚方市立中央図書館（大阪府：「手話でたのしむおはなし会」、マンガの貸出、
「中央図書館利用案内 映像版」等）
練馬区立光が丘図書館（東京都：「手話つきおはなし会」）
白山市立松任図書館（石川県：「手とおはなしの会」） 等

☆聴覚障害者は本や文章を読むのが苦手で、筆談や口頭で説明を受けても分からないことがある。
そのため、図書館の利用方法を知らなかったり、図書館自体を敬遠してしまうことがある。
職員に聴覚障害のある者や手話ができる者がいなくても、筆談の方法を工夫したりすることなどで対応したい。また地元の聴覚障害者関係の団体との連携をとることでサービスが可能となる場合もある（手話による読み聞かせ等）。出前講座等でこちらから飛び込んでいく必要もあるだろう。また非常時に聴覚障害者の利用者が居た場合にどのように対応するかも考えておくとよい。

【参考文献】

『聴覚障害者に対する図書館サービスのための IFLA 指針 第2版』（2003年，日本図書館協会）
『聴覚障害者も使える図書館に 改訂版』（1998年，日本図書館協会）
『手話の世界を訪ねよう』（亀井伸孝著，2009年，岩波書店）
『基礎から学ぶ手話学』（神田和幸編著，2009年，福村出版）
『新手話ハンドブック』（全日本ろうあ連盟著，2007年，三省堂）
『こどもの図書館 2010年11月号』（『手話でたのしむおはなし会』山口俊裕）枚方市立中央図書館
『みんなの図書館 2007年6月号』（『手話でたのしむおはなし会』を見学して）椎原綾子）枚方市立図書館
『NORMALIZATION 2007年2月号』（『すべての子どもが絵本と接する環境を』西野和弘）白山市立松任図書館
『みんなの図書館 2010年11月号』（『耳の聞こえない子どもにも本の楽しさを一手話によるおはなし会』綾久美子）八王子市中央図書館